

国際理解コース、「サステナビリティ」について考える

10月18日（金）第5・6時限、NPO「愛・知・未来フォーラム」が主催する出前授業2回目として、日本ガイシ株式会社ESG推進部、野尻敬午様に来ていただきました。今回は、国際理解コース1年生30名を対象に、「企業にとってのサステナビリティ」というテーマでお話を伺いました。

冒頭、「水環境への負荷が一番大きいものは、トイレ・風呂・台所・洗濯のどれか？」というクイズで、生徒の心をぐっとつかまれた野尻様。正解は台所からの排水で、魚が住めるようにするためには90倍の水道水で薄めなければならないということでした。では、90倍に薄めればそれでいいのか、もちろんいいわけがありません。今私たちが抱える問題に対しても、そういう解決策を考えてしまいがちですが、そうなってはいけないことは、生徒も分かっていました。そして、安易な解決策に走らないようにというお言葉に、私たちは課題に向かう姿勢を教えていただきました。

企業にとってのサステナビリティは、企業ですから、まず自社の持続を考えること、そして企業の持続は、その土台となっている自然・社会が安定して初めて成り立つということを教えていただきました。だからこそ、企業は自然や社会に対して配慮した活動をするのだと分かりました。

最後に、企業ではなく、「あなたにとってのサステナビリティとは？」という問いをいただき、私たち一人一人が今後の生活の中で考えて、答えを見つけていかなければならないと思いました。

これからも津島高校では、様々な分野の第一線で活躍されている方を講師としてお迎えし、探究的な問題解決を進めていきます。 (丹羽)

